

平成 25 年 11 月 19 日（火）5 校時

指導者 齋藤さほり

展開場所 自教室

1 単元名 『おむすびころりん』のオペレッタを作ろう。

2 単元について

(1) 本単元で扱う主たる言語活動

物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。

(2) 単元観

いぶき学級は、生活の中でも学習の中でも、上学年の児童が下学年を助けよう、教えようとする姿が多く見られ、児童同士よく関わりあいながら学校生活を送っている学級である。本学級の児童は、本が好きな児童が多く、読み聞かせを楽しんだり、教室の本を手にとり、熱心に読んだりしていることが多い。しかしながら、昔話の本を自ら選ぶ児童は、ほとんどいない状態である。国語の学習の中で取り上げることで、昔話の面白さを感じ、「他の昔話も読んでみたい」という気持ちをもてるようにしていきたいと考える。

本単元は、絵本『おむすびころりん』を題材にし、読み取りを行っていく。このお話の中には、思わず口にしたくなるリズムの良い言葉、穴から聞こえてくる歌の不思議さ、ネズミの世界の楽しさなど、魅力的な部分が多くある。また、歌や踊りの大好きなじさまと、隣に住むよくばりじさま、という極端に対比される人物が、生み出すドラマが面白いお話である。文章やさし絵から、自分が感じたこと、思ったことを言葉で表して伝えようとしたり、友達の話聞いて気がついたり共感したりする学び合いの場を作り、読み取りが深まるようにしていきたい。

毎年、物語の学習は、劇活動にし、学習発表会で発表してきた。劇活動は、お話の世界を楽しむ活動としても、単元のゴールとしても定着している。今年度は、劇活動から一歩進め、オペレッタ『おむすびころりん』に取り組む。既成のオペレッタでは、歌や踊りの好きなじさまが、ネズミの世界に行き戻ってくる、という部分が演じられる。まず、そのオペレッタに取り組み、学習発表会で発表する予定である。その後、よくばりじさまがネズミの世界に行く部分のオペレッタを、児童とともに作り校内での発表を予定している。

現実の世界では、良い（歌や踊りの好きな）じさまと、悪い（よくばり）じさま、というような単純な性質で分けられる人は存在しない。性質が単純化された人物が登場する、昔話ならではの面白さを感じ、お話の世界で遊ぶような体験を、オペレッタでさせたいと考える。お話を丁寧に読み、心をこめて言えるセリフやふさわしい体の動きなどを考えられるようにし、児童同士が、考えを交換し動きを互いに見あうような、学びあいの場面を作りたい。セリフを言ったり歌ったりすることが得意な児童はもちろん、会話が苦手な児童も、体を使った表現の面白さや音楽に合わせて動く楽しさなど感じ、お話の世界を楽しむ取り組みになるようにしていきたい。

(3) 本単元でつけさせたい力

- ① 自分の思いを伝えたり、級友の意見を聞いたりする、やりとりの力
- ② 登場人物の行動や心情を、歌や声、身体で表現する力
- ③ 昔話の面白さを感じ、自ら選んで、読書しようとする力

### 3 児童の実態

児童	本単元に関する実態
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味をもって、読み聞かせを聞くことができる。平仮名、カタカナの視写が正確にできる。</li> <li>・指示や会話など、ほとんど理解できるが、発音が不明瞭で、発語は「先生やって」「あっち行って」など、2語文程度である。日直の号令などは、文節で切り、先行して言うと、後を追って言うことができる。</li> <li>・身体表現は、周りの様子を見て真似をしたり、動いている級友を追いかけたりすることを、楽しむ状態である。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初見の文も、しっかりと抑揚をつけて、音読することができる。細やかに心情をとらえることができる。工夫したセリフなどを考えることができ、発表することを好む。</li> <li>・歌が好きで楽しんで歌い、音楽にふさわしい動きを考えて踊るなど、身体表現も得意である。</li> <li>・体力がなく疲れやすい。また、発表の順番などで気分を損ねるなど、学習の参加に、むらがある。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初見の文も、正確に音読することができる。文の意味を理解することは、ほぼできるが、心情をとらえることは難しく、教師の声色や表情から、「楽しい」「悲しい」など単純な心情をとらえている。</li> <li>・自分から挙手することは少ないが、指名すると、何かしら答えようとする。</li> <li>・歌詞をよく覚え、よく響く声で歌うことができる。体をリズムカルに動かし、難しい動きも踊ることができる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字は拾い読みで、読み間違いも多いが、一度読んだ後に、もう一度声にして、単語の意味をとらえられることが多くなってきた。</li> <li>・教師の音読や挿し絵から、内容を理解することができる。細やかに心情をとらえることもでき、ふさわしいセリフを考えることができる。発表も好んで行う。</li> <li>・耳から聞いて覚えるため、時間がかかるが、良い声で楽しんで歌うことができる。身体表現も好んで行う。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席中のため、実態は不明である。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む速度が速く、内容もほぼ理解して、とらえることができる。単純な心情の読み取りが可能である。音読は正確だが、声が小さく早口である。</li> <li>・語いが多いが、意味を間違っているとらえていることがあり、本人が、意図したことと異なる文章になることもある。教師の発問や級友の発表を、聞き取ることが難しく、挙手することが少ない。</li> <li>・絶対音感があり、歌詞もよく覚え、正確に歌うことができる。身体表現では、自分で動きを工夫し、巧みに踊ることができる。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初見の文でも、正確に音読し、内容や心情を理解することができる。級友の考えを聞いたり、教師の励ましを受けたりして自信がもてると、挙手して発表することができる。</li> <li>・歌詞を覚え、口を動かしているが、周りに聞こえる声で歌うことは少ない。歌に合わせて、楽譜を指でさししめすなど、自分自身の活動より、級友への世話を優先させることが多い。身体表現は、繰り返し取り組むと、動きに自信をもって、楽しめるようになる。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平易な文は、文節で区切って音読することができる。短い文章は、理解することができる。内容や感情をとらえていることが、表情や体の動き、級友への同意などからわかるが、自分の言葉で表現することが難しい。</li> <li>・単純な言葉ではあるが、発表しようと意欲的である。</li> <li>・さびの部分や繰り返しされる歌詞の部分などを、大きな声で歌うことができる。身体表現は、級友の動きを見て真似したり、追いかけたりすることを楽しむ。</li> </ul>

#### 4 単元の目標

##### (1) 全体の目標

- 自分の思いを发表或し、級友の意見を聞き、反応したりすることができる。
- オペレッタ『おむすびころりん』に、楽しく参加する。
- 昔話の面白さを知り、他の昔話も読んでみようとする。

##### (2) 個別の目標

児童	本単元の目標	本時の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しんで読み聞かせを聞くことができる。</li> <li>○かけ声（「おむすびころりんすってんしゃん」など）の部分 を、周りに聞こえる声で音読できる。</li> <li>○級友の真似して、体を動かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○級友や教師の動きを見て、真似をして動くことができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各場面の様子や登場人物の心情を読み取り、発表できる。</li> <li>○ふさわしいセリフや体の動きを考えて、級友と話し合える。</li> <li>○気持ちを込めて音読し、工夫した身体表現ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み取った様子や心情を、発表できる。</li> <li>○級友の意見に対して、同意したりつけたししたりして、やりとりができる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○級友と声を合わせ、大きな声で音読できる。</li> <li>○歌のもつ雰囲気や体の動きを通し、物語の登場人物の心情をつかめる。</li> <li>○歌や身体表現を楽しみ、お話の世界のイメージをつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師や級友の真似をしたり、自分の動きを考えたりしながら、その体の動きを通し、心情をつかむ。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の指で、読む部分をさしめしながら音読できる。</li> <li>○教師の読み聞かせや挿し絵から、様子や心情をとらえ、発表することができる。</li> <li>○心情を体の動きに置きかえて、楽しんで表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み取った様子や心情を、発表できる。</li> <li>○ふさわしい動きを考えて、表現できる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室に入り、級友の学習の様子を見学できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室に入り、級友の学習の様子を見学できる。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>○級友と声を合わせて、音読しようとする。</li> <li>○語句の意味を辞書で調べ、正しく理解して使うことができる。</li> <li>○動きやセリフを話し合う中で、自分の考えを発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を理解し、参加することができる。</li> <li>○動きや音楽などに対し、考えをもち伝えることができる。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自信をもって、大きな声で音読できる。</li> <li>○とらえた心情などの発表ができる。セリフや体の動きの話し合いの中で、自分の考えをもち、伝えられる。</li> <li>○級友の世話ではなく、自分自身が歌や身体表現に集中して取り組み、オペレッタを楽しめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○とらえた心情や様子などを発表できる。</li> <li>○級友の意見を聞いたり、動きを見たりして、自分なりに動くことができる。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分や人の音読を聞きながら、内容のあらましをとらえる。</li> <li>○心情や様子を表す体の動きを考えて、発表できる。</li> <li>○短い歌は歌詞を覚え、なめらかに歌うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心情や様子を、発表することができる。</li> <li>○教師や級友の動きを見て、真似をすることができる。</li> </ul>

## 5 単元指導計画（18時間扱い）

一次 (2)	○絵本『おむすびころりん』の読み聞かせを、興味をもって視聴する。話のあらすじをとらえ、面白かった場面や心の残った場面を発表する。(1) ○単元のゴールを知り、見通しや期待感をもつ。(1)
二次 (9)	○『おむすびころりん』を読み取り、実際にオペレッタに取り組む中で、楽しさを感じる。 「おむすびが転がる場面」(3) 「ねずみに連れられていく場面」(2) 「ねずみの世界のもちつきの場面」(3) *音楽の学習で、歌の練習にも取り組んでいく。 ○(学習発表会)オペレッタ『おむすびころりん よいじさまの巻』を、発表する。(1)
三次 (本時、6)	○『おむすびころりん』を読み取り、セリフや歌などを考えて、オペレッタを作っていく。 「よくばりじさまが おむすびを転がす場面」(本時、1) 「よくばりじさまと ねずみに連れられていく場面」(2) 「ねずみの世界のもちつきの場面」(2) ○オペレッタ『おむすびころりん よくばりじさまの巻』を発表する。(1)

## 6 研究主題とのかかわり ～楽しい授業を作るための支援・指導の工夫～

### ○絵本の読み聞かせの継続

本学級では、ほぼ毎日、帰りの会やちょっとした空き時間に、絵本の読み聞かせを行っている。落ち着かない状態の児童がいたり、ストーリー性のあるお話に、興味が持ちにくい段階の児童がいたりした時には、絵にインパクトのある絵本、擬音語が多い赤ちゃんのための絵本、図鑑的な要素の強い本などを多く取り入れた。少しずつ、ストーリー性のあるお話も、短いものから取り組み、現在では、かなり長いお話でも楽しめるようになってきている。「絵本は面白い、楽しい」という思いを、日常的に積み重ねていることで、国語での読み取りの学習に対しても、期待感や興味をもって、取り組めるのではないかと考える。

### ○児童同士の学びあい

本学級は、学年も男女のバランスもよい学級である。学習や活動は、上学年（5・6年）と下学年（2～4年）別、男女別、パディ（上学年と下学年の2人組）、課題別など、様々な組み合わせで、取り組むようにしている。その中で、「ここは、自分がやらなくてはならない」という気持ちを感じる場面、また「これは、自分ができる、やりたい」と、自分の得意を生かせる場面などを味わうことは、相手も自分をも知る機会になっている。学級全体の学習の場面でも、得意なことは力を発揮し、級友の苦手な部分を責めず、助けようとする児童が多いが、これは、楽しく学んでいくうえで、大切ではないかと考えている。

### ○活躍・活動できる場面作り

物語の読み取りの場合、会話や発表することが得意で、次々と自分の思いや意見が出せる児童がいる一方で、考えることに、とても時間が必要だったり、よくわからないまま聞いているだけ、という状態の児童もいる。発表の場では聞く、同意を示す程度の参加でも、音読の場面では大きな声で読める、動作化の場面では、生き生きと参加でき、教師や級友から認められる、など、それぞれの児童が自分の力を出せる場面を作ることが、楽しいと感じる授業になるのではないかと考える。

7 本時の指導（12／18）

（1）本時の目標

- 自分の意見を発表したり、級友の意見を聞いたりしながら、内容をとらえられる。
- 登場人物の気持ちや行動を、体の動きで表せる。

（2）本時の展開

学習内容と活動	教師の支援○と評価◇
<p>1. 本時の学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○よくばりじさまのオペレッタ作りが始めることにし、期待感をもち、気持ちが高まるように言葉かけをする。</p>
<p>よくばりじさまのきもちをかながえて、うごきにしよう。</p>	
<p>2. よくばりじさまが、おにぎりを穴につめる場面までを皆で音読する。</p> <p>3. わからない語句を、教師と確認する。登場人物の気持ちを考えたり、内容をとらえたりしていく。</p> <p>A…級友の発表ややりとりを聞いている。</p> <p>B、D、G…よいじさまとの差（行動や気持ち）などについても理解し、発表できる。</p> <p>C、F…挙手はしないが、教師に指名されると、何とか答えようとする。</p> <p>H…言葉は足りないが、何かしら発言しようとする。</p> <p>4. 机を動かしてスペースを作り、おむすびをにぎる場面、穴につめこむ場面の動きを行う。</p> <p>A…周りの動きを見ている。教師や級友の声がけや誘いで動き始める。</p> <p>B、D…意見や考えを出しながら、動く。</p> <p>C…周りの動きを見て、一緒に動こうとする。動き始めると、独自の動きも出せる。</p> <p>F…課題が分かったと、自分なりの動きを単独、またはHとともにやろうとする。</p> <p>G…教師や級友の考えや動きを見て、自分の考えをもち、動き始める。</p> <p>H…周りの動きを一生懸命見ている。どうしたらよいかなどが分かったと、真似をするなどして動き始める。</p>	<p>○語句の確認の中で、擬態語に対しては、語句のイメージがつかめるよう動作を伴わせる。</p> <p>○A、Cに対しては、「がしがしにぎる」など動作化の際に、活躍できるようにする。</p> <p>○Fに対しては、発問をする前に、個別に声かけし、意識して聞けるようにする。</p> <p>◇自分の考えを発表したり、級友の考えを聞いて、反応したりしているか。</p> <p>○それぞれの児童が動きを考えたり、真似したりして、自分なりの動きを出せるようにするために、全体で考える場面、個別に取り組む場面、級友の動きを見る場面などを作る。</p> <p>○BやDの動きを、学級全体に広げ、流れを作っていく。</p> <p>○Gは、動きや声が小さいが、ほめられると、自信をもってできるため、大いに認めていく。</p> <p>○Fには、個別に声かけして、課題が理解できるようにし、アイデアが周りに広がるようにする。</p> <p>○A、C、Hの、たとえ真似であっても、自分から動いている姿を、皆の中で認めていく。</p> <p>◇場面にふさわしい、体の動きができていくか。</p>
<p>5. 机を戻し、次時の活動を確認する。</p>	<p>○次回の取り組みを楽しみにして、学習が終われるようにする。</p>